



# 自衛隊栃木地方協力本部

## SUPER GTで自衛隊をPR ～サーキット場に轟くF-2の軌跡～



賑わう広報ブースの様子



自衛隊説明の様子



電光掲示板に表示されたF-2の紹介



F-2 展示飛行の様子



展示飛行の調整をキャットウォークで見学した大学生たち



サインに応じる垣澤1空尉



記念撮影に応じる松倉3空佐

自衛隊栃木地方協力本部（本部長 松田 桃子1陸佐）は11月2日（日）、栃木県のモビリティリゾートもてぎ（芳賀郡茂木町）で開催された「2025 AUTOBACS SUPER GT Round8 MOTEGI GT 300km RACE GRAND FINAL」において、航空自衛隊第4航空団第21飛行隊（松島）に所属するF-2戦闘機の展示飛行支援及び自衛隊広報ブースを出展した。

当日は約32,000人が訪れ、レース前から多くの観戦者の熱気に包まれていた。広報ブースでは制服試着、F-2戦闘機のタペストリー、防衛記念章、F-4戦闘機スロットル及び操縦桿展示などを行い賑わっていた。

オープニングセレモニーで、爆音とともに現れたF-2戦闘機2機が会场上空に現れると大きな歓声が上がリ、速度を変えながら往復するF-2の姿をカメラに収めようと、長い望遠レンズが一斉に空を見上げた。レーシングカーよりさらに大きな轟音を響かせ現れる姿に「すごい迫力です！すぐくカッコ良かった！」「こんなに近くでF-2を見れるなんてとても感動しました！！」等の声が聞かれ、「パイロットになるにはどうしたらいいですか？」と隊員に話す小学生の姿もあった。また、展示飛行地上要員として支援に来ていたF-2戦闘機パイロットの2人（松倉3空佐、垣澤1空尉）が広報ブースを訪れ、サインや記念撮影に応じていた。来場者は「百里基地でも飛行展示も見ました！今回もF-2を楽しみにしていました」「戦闘機のパイロットに直接話を聞けるなんて、とてもうれしいです！」と財布にサインをしてもらい、嬉しそうな笑顔で話す来場者の姿も見られた。

栃木地本は「今後も、広報イベントを通じ、地域の皆様に自衛隊を身近に感じていただけるよう活動していくとともに自衛隊への理解の推進及び募集活動に邁進していく」としている。